

双胎妊娠、頸管縫縮術、無作為対照試験1

単胎妊娠において頸管縫縮術の有用性は確認されているが、多胎妊娠においては確かな根拠は存在しない。双胎妊娠における頸管縫縮術に関して1件の無作為対照試験が行われているが早産率に差は認められていない。頸管長が短縮した双胎妊娠を含めた3件の無作為対照試験のメタアナリシスでは頸管縫縮術で早産率は上昇している。双胎妊娠における内診の結果を基準とした頸管縫縮術の有用性は適正な臨床試験で評価されていない。適切なコントロールと比較した無作為対照試験を欠いている現在、頸管縫縮術は多胎妊娠において適応とはならない。

Cerclage in twins: we can do better!
Vincenzo Berghella, Amanda Roman
Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):5-6

【文献番号】 o06200 (頸管縫縮術)

妊娠、癌、化学療法、妊孕性温存、放射線療法2

妊娠に伴う癌は比較的稀で妊娠1,000例あたり1例ほどであるが産科医はケアの中心的役割を演じる必要がある。本論文は妊娠に伴った癌について婦人科医に適切な情報を提供しようとしたものである。妊娠に伴う癌は上昇傾向にあるが、これには発現率の上昇と出産年齢の遅延が関わっている。妊娠に伴う癌の検査や画像診断なども制限され、その診断精度にネガティブな影響を及ぼすこともある。癌の既往のある女性には避妊のカウンセリングや妊孕性温存などを含め適切な対応が必要である。

Cancer and pregnancy: an overview for obstetricians and gynecologists
Ritu Salani, Caroline C. Billingsley, Sarah M. Crafton
Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):7-14

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

B群連鎖球菌、早発型新生児敗血症、抗生物質、予防投与5

B群連鎖球菌は早期新生児敗血症の主要な原因となっている。出産前の女性の約30%はB群連鎖球菌の集落化を認めている。分娩中の抗生物質の予防投与で早発型B群連鎖球菌敗血症の発現頻度は83%減少した。分娩中の4時間にわたる抗生物質の被曝が早発型B群連鎖球菌疾患を最も効果的に予防する。4時間ごとに抗生物質を投与することで胎児の抗生物質のレベルはB群連鎖球菌の最低阻止濃度を上回る。

Intrapartum antibiotic prophylaxis for Group B Streptococcus: has the time come to wait more than 4 hours?
Mark Turrentine
Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):15-17

【文献番号】 o01700 (妊娠、細菌性陰症、クラミジア、ヘルペス、ウイルス感染、B群連鎖球菌、HIV、感染症、MRSA)

思春期女性、出産、避妊、implant、迅速避妊法、長期作用性可逆的避妊法6

思春期女性において分娩後直ちにimplant (IPI)を皮下に挿入することは費用対効果の面で優れている。IPIの費用を現在給付していない支払者は施策を講ずる際には今回得られたデータを考慮する必要がある。

Preventing repeat pregnancy in adolescents: is immediate postpartum insertion of the contraceptive implant cost effective?
Leo Han, Stephanie B. Teal, Jeanelle Sheeder, Kristina Tocce
Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):24.e1-24.e7

【文献番号】 r12200 (避妊、経口避妊薬、妊娠中絶、IUD、IUS、人口問題、リスク因子、スクリーニング)

重複頸管、診断基準、子宮奇形7

重複頸管(double cervix)を有する女性において中隔子宮は重複子宮と同様な頻度で認められ、双角子宮よりも高い頻度であった。頸管の間の広い距離がMRIで確認された場合は重複子宮と診断されることが多いが、重複頸管を有する女性において正しい診断を下す際には子宮底部を注意深く調べる必要がある。

Double cervix: clarifying a diagnostic dilemma
Benjamin C. Smith, Douglas L. Brown, Rickey E. Carter, Abimbola O. Famuyide
Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):26.e1-26.e5

【文献番号】 r10602 (性器奇形)

血液、輸血、自己血液、セルセーバー9

腹式子宮筋腫核出術を受ける女性において手術野からの自己血の採取をルーチンに行うことは必ずしも正当化されないとされる。自己血の回収は自己血の輸血を受けた場合においてのみ費用対効果の面で優れている。しかし、臨床的要因から自己血の再輸血が必要な患者を正しく予測することはできない。

Utility of cell salvage in women undergoing abdominal myomectomy
Moeun Son, John C. Evanko, Linda B. Mongero, Sharyn N. Lewin, Yu-Shiang Lu, Thomas J. Herzog, Jin Hee Kim, Jason D. Wright
Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):28.e1-28.e8

【文献番号】 g07600 (手術関連事項)

母体死亡、チェックリスト、安全性、肺塞栓、高血圧13

高血圧疾患と術後の肺塞栓症による母体死亡を疾患特異性プロトコルを用いることによって減少させることができる。帝王切開そのものによるアメリカにおける母体死亡は年間2～6名である。術後の出血による死亡の減少はアメリカにおける今後の母体死亡を防ぐための最優先事項である。

Maternal mortality in the United States: predictability and the impact of protocols on fatal postcesarean pulmonary embolism and hypertension-related intracranial hemorrhage
Steven L. Clark, James T. Christmas, Donna R. Frye, Janet A. Meyers, Jonathan B. Perlin
Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):32.e1-32.e9

【文献番号】 o10200 (母体死亡、妊産婦死亡、母体合併症)

IUGR、流産、胎盤剥離、子癇前症、自然早産、死産18

2回以上の流産の既往のある女性においては胎盤機能障害のリスクは上昇することから、妊婦検診においては一つのリスク因子とみなすべきである。

Risk of placental dysfunction disorders after prior miscarriages: a population-based study
Johanna Gunnarsdottir, Olof Stephansson, Sven Cnattingius, Helena Akerud, Anna-Karin Wikstrom
Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):34.e1-34.e8

【文献番号】 o03900 (異常妊娠関連事項)

不安、抑うつ、認知障害、子癇、子癇前症19

子癇あるいは子癇前症を経験している女性はコントロールの女性と比較し運動機能の領域におけるスケールの有意な悪化をみた。主観的な認知機能にも有意な悪化がみられ、不安と抑うつのスケールにも有意な悪化も認められた。認知障害は不安や抑うつによって増強する可能性がある。構造的な脳の異常と神経認知機能との関係に焦点を当てた研究をさらに行う必要がある。

Neurocognitive functioning following preeclampsia and eclampsia: a long-term follow-up study
Ineke Rixt Postma, Anke Bouma, Iefke Froukje Ankersmit, Gerda Geertruida Zeeman
Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):37.e1-37.e9

【文献番号】 o02200 (妊娠中毒症、妊娠高血圧、腎機能障害、胎盤剥離、子癇、リスク因子)

敗血症、スコアリングシステム、ICU、妊婦、褥婦21

産婦および褥婦の産婦人科領域の患者のためにデザインされた敗血症スコアリングシステムはICUへの入院のリスクが高い患者を特定する上で有用であるという結果が得られた。今後、前方視的な評価で確認する必要がある。

The Sepsis in Obstetrics Score: a model to identify risk of morbidity from sepsis in pregnancy
Catherine M. Albright, Tariq N. Ali, Vrishali Lopes, Dwight J. Rouse, Brenna L. Anderson
Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):39.e1-39.e8

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

脳損傷、低酸素性虚血性脳症、MRI、新生児、全身低体温療法24

出生時における代謝性アシドーシスの悪化、自然呼吸までの時間の延長、オキシトシンの被曝の欠如などは全身低体温療法後に重度脳損傷を認めるリスクは上昇した。これらのリスク因子は脳神経防御のための時間的制限のある試験的治療が必要となる新生児を速やかに特定する上で有用と思われる。

Perinatal risk factors for severe injury in neonates treated with whole-body hypothermia for encephalopathy
Christopher P. Wayock, Rachel L. Meserole, Suchi Saria, Jacky M. Jennings, Thierry A.G.M. Huisman, Frances J. Northington, Ernest M. Graham
Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):41.e1-41.e8

【文献番号】 o08100 (新生児仮死、新生児痙攣、神経発達障害、脳性麻痺、新生児合併症、新生児アシドーシス)

頸管縫縮術、内診所見、予測因子、早産、双胎27

診察所見に基づいて頸管縫縮術を行った双胎妊娠においては28週未満の極早期早産のリスクは単胎妊娠と同様なリスク因子を有し同様な産科的臨床結果が得られた。

Outcomes after physical examination-indicated cerclage in twin gestations

Emily S. Miller, Priya V. Rajan, William A. Grobman

Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):46.e1-46.e5

【文献番号】 o06200 (頸管縫縮術)

絨毛羊膜、分娩、炎症、prolactin29

prolactin はヒトの分娩の際の炎症反応に関わるシグナルの発現をコントロールしている中心的因子である可能性が示唆された。

The potential role of prolactin as a modulator of the secretion of proinflammatory mediators in chorioamniotic membranes in term human gestation

Veronica Zaga-Clavellina, Adalberto Parra-Covarrubias, Jorge Ramirez-Peredo, Rodrigo Vega-Sanchez, Felipe Vadillo-Ortega

Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):48.e1-48.e6

【文献番号】 o01500 (胎児合併症、胎児発育)

分娩後出血、世代間伝達、リスク因子、コホート研究31

母親とその祖母に分娩後出血が認められた女性において、分娩後出血のリスクは上昇しないものと思われる。分娩後出血のリスクの上昇は初産婦、巨大児出産、帝王切開、生殖管の損傷などが関わっている。今回の研究はオッズ比が1.3未満のリスクを検出する統計的パワーに欠けているが、分娩後出血の世代間伝達の影響を証明することはできなかった。家族歴の中でリスクが存在したとしても、当該妊娠そのものの因子の影響より低いものと考えられる。

Intergenerational transmission of postpartum hemorrhage risk: analysis of 2 Scottish birth cohorts

Gemma C. Sharp, Philippa T.K. Saunders, Stephen A. Greene, Andrew D. Morris, Jane E. Norman

Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):51.e1-51.e7

【文献番号】 o05200 (産科ショック、子宮復古不全、分娩後出血、貧血、子宮動脈塞栓術、止血法)

帝王切開、初産婦、肥満、頸管熟化32

肥満の初産婦で正期産を迎えた女性において選択的分娩誘発を試みることによって待期療法を試みたものより帝王切開のリスクは上昇し、NICUへの入院の割合にも上昇が認められた。

Risk of cesarean in obese nulliparous women with unfavorable cervix: elective induction vs expectant management at term

Heather Wolfe, Julia Timofeev, Eshetu Tefera, Sameer Desale, Rita W. Driggers

Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):53.e1-53.e5

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)

費用対効果分析、試験分娩、TOLAC33

帝王切開後の2度目の分娩において選択的反复帝王切開(ERCD)を試みた群と比較し、試験分娩(TOLAC)を試みた群において同様な臨床結果であったが、その後の分娩においては高い費用対効果が得られた。

The cost-effectiveness of a trial of labor accrues with multiple subsequent vaginal deliveries

Kevin M. Wymer, Ya-Chen Tina Shih, Beth A. Plunkett

Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):56.e1-56.e12

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)

AMH、PCOS、ART、臨床結果、異常高値34

今回、AMHが上昇している女性の特性を初めて明らかにすることができた。AMHが10ng/mL超の女性の大部分はPCOSと診断された。AMHのレベルの上昇はPCOSの重症度、大きな卵巣の反応性およびARTにおける高い妊娠率と相関した。

Characterization of women with elevated antimüllerian hormone levels (AMH): correlation of AMH with polycystic ovarian syndrome phenotypes and assisted reproductive technology outcomes

Reshef Tal, David B. Seifer, Moisey Khanimov, Henry E. Malter, Richard V. Grazi, Ben Leader

Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):59.e1-59.e8

【文献番号】 r07100 (PCOS、PCO、インシュリン抵抗性、高アンドロゲン症、ovarian drilling)

day3-FSH、妊孕性、IUI、gonadotropin刺激37

day3のFSHが上昇している35歳未満の若い女性においてgonadotropinを用いて積極的に治療しIUIを試みた場合、FSHの基礎レベルが正常な女性と同様な妊娠率が得られた。このような結果から考え、day3-FSHが高い女性においては前胞状卵胞の数を増加させるためには、より高用量のgonadotropinを使用する必要があると思われる。

Elevated day 3 follicle-stimulating hormone in younger women: is gonadotropin stimulation/intrauterine insemination a good option?

Irene Souter, Irene Dimitriadis, Lina M. Baltagi, John D. Meeker, John C. Petrozza

Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):62.e1-62.e8

【文献番号】 r10300 (人工授精、IUI、AID)

卵巣腫瘍、悪性腫瘍、画像診断、MIA、OVA140

骨盤の画像診断がMIAスコアにどのような影響を及ぼすかということを理解することは、臨床家にとって卵巣腫瘍の悪性のリスクを考える上で有用である。

The effect of ovarian imaging on the clinical interpretation of a multivariate index assay

Scott T. Goodrich, Robert E. Bristow, Joseph T. Santoso, Rachel W. Miller, Alan Smith, Zhen Zhang, Frederick R. Ueland

Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):65.e1-65.e11

【文献番号】 g04120 (悪性卵巣腫瘍)

化学療法、chemoresponse assay、卵巣癌、プラチナ製剤、薬剤抵抗性41

進行期の上皮性卵巣癌と診断されcarboplatin+paclitaxel療法を試みた患者において、carboplatinに対する「assay resistance」との診断は無増悪生存率の短縮と強い相関が認められた。「assay resistance」は標準的なplatinum製剤を基本とした化学療法において、早期の再発をみるリスクのある患者を特定する上で有用と思われる。

A chemoresponse assay for prediction of platinum resistance in primary ovarian cancer

Thomas C. Krivak, Shashikant Lele, Scott Richard, Angeles Alvarez Secord, Charles A. Leath, Stacey L. Brower, Chunqiao Tian, Richard G. Moore

Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):68.e1-68.e8

【文献番号】 g04120 (悪性卵巣腫瘍)

膀胱腔瘻、経腹的修復術、経腔的修復術、性機能43

膀胱腔瘻に対して経腹的あるいは経腔的手術によって修復術を試みたところ、性機能とQOLの改善を図ることができ、手術法によって差異は認められなかった。手術時間、出血量、入院期間などを比較したところ、経腔的アプローチの方が優れている。もし、膀胱腔瘻の状態と患者の状態が妥当であるならば、経腔的アプローチが膀胱腔瘻の修復に適していると思われる。

Sexual function after vaginal and abdominal fistula repair

Stefan Mohr, Sonja Brandner, Michael D. Mueller, Ekkehard F. Dreher, Annette Kuhn

Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):74.e1-74.e6

【文献番号】 g07500 (婦人科手術、子宮摘出術、核出術、付属器摘出術、予防的手術、尿路系手術、新術式)

腹壁ヘルニア、妊娠、腸管閉鎖、CTスキャン44

44歳の4経妊3経産の妊婦が巨大腹壁ヘルニアの再発と腸管閉鎖のために来院した。腸管症状は保存的な対応で改善した。正期産において帝王切開が試みられ児の娩出が図られた。

A gut-wrenching feeling: Pregnancy complicated by massive ventral hernia with bowel obstruction

Allison E. Serra, Alex Fong, Judith H. Chung

Am J Obstet Gynecol.2014 Jul;211(1):79.e1-79.e2

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)
